

なかだの森通信 vol.41

発行/NPO 法人子どもへのまなざし
発行日/平成30年11月14日

ようこそ！なかだの森へ！
私たちが大切にしていること

子どもにとって『あそび』は生きることそのもの！

日々溢れるおもちゃと情報にうもれて、幼少期を過ごす今の子どもと親たち…子どもたちにほんとうに必要なものは、決められた遊びしかできないおもちゃでも一方的に与えられるだけの知識でもないはず。『やってみよう！』と思うことのすべてが「あそび」です。挑戦なので失敗はつきもの。“危なっかしい” “汚い” “うるさい” と大人の都合で体験を奪ってしまうと、子どもが自ら育とうとする力を抑えてしまうことになるのです。

あなたは『自分らしい子育て』できていますか？

「あそび」の中での子ども同士のケンカや失敗が大切だと思っても、「迷惑をかけない」ようにと周りの目を気にして、子どもに「うるさくしないの！」「汚しちゃダメ」「いい子にして」とうるさく言わなくてはならない…そんなへトヘトな毎日を送っていませんか？子育ては決してお母さん一人ではできません。子育てに関する情報が溢れ、人と人のつながりが希薄になっている現代。子どもも、そして親だってたくさんの温かいまなざしの中で育ちあうことが、今、とても大切だと考えています。

なかだの森であそぼう！ Information

■ 場所 / 仲田の森蚕糸公園

■ 開催日 / ●毎週金曜日・毎月第2・3土曜日 10時～17時



日野市日野本町 6-1-88
駐輪場・駐車場 (100円/時) あり

■ 持ち物 / 水筒、着替えなど
冬は防寒、夏は虫よけを！

「なかだ鍋」を食べる方は…

おわん、おはし、鍋の具材、調味料代 (50円)
おにぎりなど主食をお持ち下さい！

開催日には、「なかだ鍋」を作ります！みんなが持ち寄ってくれた具材で、野菜たっぷり・栄養満点お鍋ができるんですよ。量は、ご自分とお子さんの食べる茶碗分が目安です。冷蔵庫に眠っているお野菜、もやしやコーン缶、ワカメ、お肉でも！



なかだの森であそぼう！

検索

お問い合わせ | 【事務局が移転しました！】〒191-0055 東京都日野市西平山 4-18-12
【電話番号が新しくなりました！】042-843-1282(月～木・10時～17時)
【メール】info@manazashi2009.sakura.ne.jp
【ホームページ】http://www.manazashi2009.sakura.ne.jp

発行元：NPO 法人 子どもへのまなざし



目次 ◎ CONTENTS

- p2 特集「川でとことん！子どもの時間」
- p4 特集「アソビゴゴロ」と「モヤモヤ」のはざままで — 「子どもの時間」を観察してみる編 —
- p6 連載「子どもの時間」 — ただ「在る」ということ —
- p7 連載「母のまなざし」 — 森との出会い —
- p8 まなざしレポート・日野市児童館職員研修会・とうきょうプレイデー 2018
- p9 森のひと紹介—ちょこちゃん— / 編集後記「森の一と」
- p10 なかだの森であそぼう！ information+ / ようこそ、なかだの森へ！
- p11 私たちの活動を応援して下さい！



川でとことん！ 子どもの時間

あなたは子どもの頃、川であそんだことはありますか？
今、あなたのお子さんと川であそぶことがありますか？
日野市を流れる多摩川・浅川には、とっておきの川あそびポイントがたくさんあります。
今回は「あそべ！子どもたち！事業」の一つ『川であそぼう！ちびっ子団』（年中・年長）
『川であそぼう！がきんちょ団』（年長～小3）それぞれがこの夏過ごした「子どもの時間」
をご紹介します。「川であそぶ」について皆さんと考えたいと思います。



川であそんだことがありますか？

今、「サンマ」が失われている！

今、子どもたちを取り巻く環境から「サンマ」が失われていると言われてます。
「サンマ」とは、3つの間（時間、空間、仲間）のこと。

日野市は「緑と清流の街」と謳われているように、多摩川と浅川、程久保川が流れ、用水路も数多く残されています。でも、どんなに豊かな自然（空間）があっても、とことんじっくりあそぶ時間、一緒にあそぶ仲間がいなければ「子どもの時間」にはなりません。
プールや観光地の海や川では、休日たくさんの人たちで賑わうのに、すぐそばにある自然（それも無料！）で子どもたちが群れてあそんでいる姿あまり見かけないですね。うーん、何だか、もったいないなあ！



子ども時代の「あそび」が保障される世の中にするために…

当団体の「あそべ！子どもたち！事業」。子ども時代の「あそび」を保障するための取り組みです。山や川であそぶことが特別な体験ではなく「日常のあそび」を広げるきっかけとなるように活動をしています。

日野市を流れる多摩川と浅川にはとっておきの川あそびポイントがたくさん！
毎年、当団体が夏に開催している「川であそぼう！がきんちょ団・ちびっ子団」では、子どもたちが思い思いにとことん「子どもの時間」を過ごしています。

川あそびの最中、溺れかけたところをサスケに助けもらったとのこと。「こわさ」も知ることができて良かったです。

自然の中で思いっきり遊ばせてやりたいのですが、親に経験がなく歯痒い思いをしました。

地元で普段から川あそびをしている人ならではのとても素敵なスポットで川あそびをすることができました。

普段のびのびと遊ばせたいと思っているけれど、子育ての違う人の中では人を見て「あれダメ、これダメ」といってしまうことが多々あります。

地域とつながって、地域をBASEにこんな風に子どもたちが遊べる。しかも東京で。日野って素敵なおとこだと思いました。

我が子が参加して感じたこと

暮らしのすぐそばに川がある街

「川」って身近ですか??

「緑と清流の街」日野市。
ここでは、ちょっと「川」に目を向けてみたいと思います。
さて、皆さんは『暮らしのすぐそばにある川』という、どこを思い浮かべますか？

実は、子どもたちが普段遊んでいる公園の水路も、もちろん「なかだの森」の水路も用水路の一部。日野市在住の方の中には、お家の目の前に用水路が流れているよ、という方もいかもしれませんね。
そして、それを辿ると…浅川、程久保川、さらに本流の多摩川へ続きます。

さて、そんな多摩川。少し前はかなり汚れてしまった時期があったようです。今は清流といかないまでも鮎が遡上するまでになっています。実は、多摩川の水がきれいになったのには理由があるのです。

今回は、多摩川流域に住んでいる人にぜひ読んでもらいたい本『タマゾン川』から、その答えになる一部をご紹介します！



▲日野市内の川・用水路と水遊びスポットを地図にしてみました。皆さんのお住まいの場所にも用水路や川がありますか？



ウンチとオシッコの川

とうとうと流れる多摩川の水、じつはそのほとんどが下水処理水なのです。「エーッ、じゃあ、ウンコとオシッコの川ってこと?」「その通り！でも下水処理水ってすごくきれいなんだ」私がそう言うと、みんなホントかなって顔をしますが、ほんとうです。コップでくんでみたら無色透明、にがりひとつありません。下水処理場の処理能力はとて高いのです。たとえば、東京・府中市にある「北多摩一号水再生センター」。この施設から放出される下水処理水の量は、秋川や浅川などの支流から流れ込む水よりも多く、多摩川にもっとも多くの水を供給しています。ここには府中市や国分寺市などの住民が出す下水が集まりますが、処理前のBOD（水の汚れをあらわす数値）は140。けれど、処理をしたあとのBODはたったの1。溪流の魚であるヤマメやイワナが住めるまで水を綺麗にできるのです。
- 中略 -

死の川だった多摩川は、下水処理場によってみごとに生き返ることができたのです。ただし、それも流域にすむ住民の協力があってのことです。こんど、みんなの家に届く水道料金の領収書を見てみてください。上水道（使う水）と下水道（捨てる水）に分かれて金額が書かれています。流域には下水道のほうが高くなっている自治体けっこうあります。つまり、わたしたちは使う水だけでなく、捨てる水にもたくさんのお金を支払っている。そして、そのことにみんなが合意しているのです。これはすごいことだと思いませんか？自分の家と川がつながっていることを一人ひとりが意識したことで、多摩川は再生の道を歩むことができたのです。（『タマゾン川』P118～122より）

実は意外にも私たちの生活に深く結びついている「川」ですが、知らないこともまだまだ多いなあ…と感じます。さて、『タマゾン川』の著者 山崎さんは、本の中で「川は見るものではなく、楽しむもの」とおっしゃっています。川は子どもの心を動かすことがいっぱい！！
次のページでは、川で過ごす「子どもの時間」をそっこのぞいてみますよ。



あはははと一年者に
考えたい!!!

アソビゴコロとモヤモヤのしぼり...

☆「子どものやってみたい!」気持ち ☆「親の困らないう気持ち」

—「子どもの時間」を観察してみる編—

日野市を流れる多摩川と浅川には、とっておきの川あそびポイントがたくさん！
川の流れる音や魚を狙う鳥たちの声、スイスイと泳ぐ魚や石の下に潜んでいる水生昆虫。
そして、川の流れの違いを体で感じ、ぬるぬる、ドロドロ、ビチョビチョと五感をフル回転して、子どもたちが自ら「やってみたい!」と心を動かす全てが「あそび」につながります。
子どもの「やってみたい!」をじっくり観察してみると、すごくオモシロイ!
このページでは、暮らしのすぐそばにある多摩川、浅川でとことん過ごしている「子どもの時間」をそつとのぞいてみましょう!



まなざしの考える「安全」とは・・・

日々刻々と、川の流れ、深さなど、その表情を変える川。川あそびでは、その日の川の状態と子どもたちの様子を見ながらの臨機応変な対応と危険に対する知識が必要です。日々表情を変える自然だからこそ、子どもたちが自ら「やってみたい!」と心を動かす全てがあそびにつながります。私たちは、安全を考えるということは、決して活動を規制するものではないと考えています。むしろ、「危険だからしない、させない」という消極的な危険回避ではいざという時、本当の危険から身を守れないことにつながってしまいます。そのままでは危険でできないような挑戦も積極的に取り組み安全を考えることで、活動の範囲が拡大していくと考えています。

子どもの中の「あそび心」を感じ、考える大人を増やそう!

今、プレーパークだけでなく、子どもに関わる全ての大人に、子どもの中の「あそび心」をおもしろがるまなざしが必要だと感じています。毎年開催している当団体の事業「大人の川あそび」では、多摩川・浅川それぞれのとっておきの川あそびポイントで大人自身が子どもの頃に思いつき遊びます。「子どもを遊ばせる」前に、大人の私たちが川で何を感じ、何を発見するかを大切にしたいのです。今年度は台風のため残念ながら中止でしたが、来年度以降もまずは大人が「あそび心」を感じることを大切に活動を重ねていきたいと思っています。

子どもの時間

巻頭でもご紹介した「川であそぼう！がきんちょ団」でスタッフとして参加してくれたさきちゃんが今感じていること、川がきで感じたことを綴ってくれました。

8月1日～3日の3日間、「川であそぼう！がきんちょ団」スタッフとして参加しました、さきちゃん(風間紗喜)です。

私は今から約7年前、世田谷区内で民間の学童保育を仲間とともに設立しました。

子どもたちには何かを教えたり、無理やり育てたりする必要はない。

子どもたち自身は、力をもっている。

そして、子ども自身が自分で「じぶん」を育むところそが、大切。

保育のプロでも教育のプロでもない、ただ想いと、自分の子育てと、自身がうけてきた教育への懐疑心から振り絞って出したこのコンセプト、今ふりかえっても、我ながらなかなかナイス！と思うのですが、残念ながらそれが一体どういうことなのかを真の意味ではわからず、場にも反映できなかったため、さまざまな問題が起こるべくして起こりました。

今思えば、サービス業として放課後の場を運営し、自分の真の願いと仕事をとおもいっきり分断していた歪みが、現実に現れていたのだと思います。そして、結局理想の場を実現できない私はだめだ、という概念におもいっきり縛られていたのです。

そんな私のバックボーンをほぼ知らないにも関わらず、何かを感じて会員のちいちゃんが声をかけてくれた6月という時期は、会社を離れて1年がたったときでした。子どもの前に、まずは自分が内側の願いから生きようと決めたのがちょうど1年前。

そして、何かができるからよいのではなく、何かができないからだめなのではなく、ただただ「在る」ことの素晴らしさをようやくつかみはじめたまさにその頃に、スタッフとして声をかけてもらったのでした。…が、送られてきた川のがきんちょ団のメンバーみて、驚愕！「未就学児」がメインかと思ってたら、小学生ばかり！ああ、だから学童やってた私に声かけてくれたのかあ…←遅い。

この時点で、不安がよぎってきます。

そう、わたし、子ども、特に小学生と遊ぶのは正直苦手。一緒にいても楽しませてあげられるかわか

— Episode 2 4 ただ「在る」こと —

んないし、全然役に立たないだろうなあ。川にいつでもあんまり中には入らないし。学童では、キャンプ組を見送って、残ってる子たちの保育担当だったしなあ…いやでも、どこにいても最善のリスク管理ができるアンテナは育てたからきっと大丈夫なはず、ゴニョゴニョ…あれ、私、大丈夫か！？

…そう、またもや私は「何かができないわたしは、だめ」という概念に縛られて、「その場の役に立つわたし」「子どもを楽しませてあげられるわたし」になろうとしていたんですね。

そんな自分がいることを認知しがっかりしつつ、そして不安でいっぱいになりつつ、でも子どもたちに会うことが無茶苦茶楽しみだなあ、という様々な流れのなかで、当日を迎えました。

この3日間、ただただ意図していたのは、「在る」こと。子どもを楽しませるのじゃなくて、自分自身がただいだけいい、そしてたまに自分自身が心から楽しめたらもっといい！それくらいの気持ちで自分本位にただ在った3日間。

そんな私を、ただただ柔らかく温かく、ひろみさんをはじめとしたスタッフの皆さん、そして川も森も火も雨も、受け入れてくれました。

そして子どもたちはみんなニュートラルに、自分の気が向くままにわたしのところに来たり、一緒に川に流されたり、一番になりたいからとぐんぐんと先頭を歩いたり、散歩したり、物語をつむいだり、ぶいっとどこかにいったり…そう、ただただともに、在ってくれました。

そんな子どもたちの在り方から、私はまた自分の在り方に立ち返る…私の気楽さを感じ、子どもたちをもっと自由になる…大げさですが、まるで生命が循環しているような、そんな不思議な、豊かな体験となりました。

素晴らしい3日間を過ごさせてくれた子どもへのまなざしに関わるすべてのひとたち、そして、日野の豊かな自然に、心からの敬意と感謝の気持ちをおくります。そして、出会ってくれたすべての子どもたちに、どこにいても、どんなことをしていても、すべてが在っていいということを意図として持ち続けようと思います。みんな、ありがとう！

(さきちゃん)

母のまなざし

「私が頑張らなきゃ！」子育てしていて、そんな気持ちになったこと、誰もがあるかもしれません。土曜の森を楽しみに来てくれているよしみちゃん。小5、小2のお子さんがいらっしゃいます。一人で子育てに奮闘していた時の気持ち森と出会った時のことを丁寧に思い出してくれました。

土曜日の朝。

森に行くのが待ち遠しい子どもたちの姿をみると、幸せな気持ちになります。

森に行ったら何をしようかな？

カーゴネットで揺りたい。水路で遊びたい。

石を探して水切りしたい。

絵を描きたい。…などと、やりたいことが次から次へと沸いて出てくるみたい。

駐車場につくと、先に行くねと嬉しそうに走っていきます。私はその生き生きとした背中を見ながら、「なかだの森」と出会えてよかったと心底思うのです。

2年半前から夫の単身赴任が始まり、私は一人きりで育児に奮闘していました。

当時、小2と年中さんの二人を抱えて、一番怖かったのは自分の体調不良。

誰かに頼ることがどうしても苦手な私は、いつの間にか「自分一人で見られる」育児をするようになっていました。

自分の目が届く範囲で、安全な遊びで、自分の体力が持つ程度で…と。

確かにそれで日々は過ぎて行きました。

でも、もしかしたら“子どもたちに必要な経験”をする機会を奪ってしまっているのでは…という自分への問いはずっと消えませんでした。

なかだの森に出会ったのは今年の5月。

小2の息子は、カーゴネットに一人で乗れず、乗ったら乗ったで揺れに耐えられず、慣れないロープで見事に弱々しい指の皮が剥けていました。

それを見て、自分への問いの答えが分かった気がしました。

帰宅後、小さな怪我をした息子がどう出ると様子を見てみると、「明日も行きたい。」と言い出しました。

— 森との出会い —

その日、『なかだの森であそぼう！』がいつやっているか調べ、カレンダーに書き込んで、私たちのなかだの森通いは始まったのです。

今では、カーゴネットに一人で乗れるし、揺れても余裕だし、でんぐり返ししながら下りてきます。やりたいことが無限に出てくるし、私がそばにいないでもキラキラとした顔で遊んでいます。毎回、なかだの森に子どもたちが育てられているのを感じています。

そして、そんな子どもたちの姿を見ながら、私はわたしで一人で森の中を散策したり、教えてもらった木登りを練習したり、水路で遊んだりしています。森で過ごす時間は私にとって、自由そのものです。母親から“私”になれる数少ない場所だと思います。

なかだの森にはあたたかい視線があふれています。だから、気付かないうちに私の中にあった孤独は消えました。一人きりに思えた育児が、実はたくさんの人に支えられているんだということに気付きました。子どもしか見る余裕がなかった私は、そんなことも感じる事ができないでいたのです。

今はたくさん感謝の気持ちを持ちながら、相変わらず忙しい日々を送っています。本当にありがとう。なかだの森と出会えて、本当に幸せです。

よしみちゃん

中学はバレーボール、高校はバスケット部のよしみちゃん。趣味はキャンプ・山登り・フラメンコ部屋の片付け。学ぶことが好きで、漢方を真剣に勉強中だそうです！人が作ってくれたものは何でも美味しい！とのことですよ♪

日野市児童館職員有志の皆さんと共に学ぶ時間をもちました。
題して『子ども時代』のあそびを保障する大人の役割研修会』

9/28
Fri



去る9月28日(金)、日野市児童館職員組合が主催する職員研修の講師を当団体代表の中川とプレーリーダーたもつが務めました。当日は、日野市内の児童館職員の有志11名の皆さんにご参加いただき、職員一人ひとりの「子ども時代」を語って頂くところからスタート。生き生きとご自身の「子ども時代」を語り合った後、「自分がしていたあそび、今の子どもたちもやっている?」「やっていないとしたら、なぜ?」と学びを深めていきました。立場は違っても、同じ日野市で子どもたちの育ちに関わる仲間として、共に学び合う貴重な時間となりました。

【参加して下さった方の感想より】

- 自分たちが子どもの頃できていたことができなくなった時代。どうしたらできる場になるかなど、改めて考える良い機会だった。
- 思った以上に全力であそべる場が市内にあることにビックリ!否定的な大人とのやっていき方をもっと知りたい。
- 自分の子どもの頃の経験を思い出しながら、子どもたちにたくさんの失敗や成功体験をさせたいと思った。
- できない現状を嘆くだけでなく、子どものあそびを保障するために大人としてできること、クリアすべきことを考える機会になった。

すべての子どもが豊かに遊べる東京を。
「とうきょうプレイヤー2018」キャンペーンに参加しました!

10/5
Fri



「全ての子どもが豊かに遊べる東京」を実現するために活動している一般社団法人 TOKYO PLAY が主催する『とうきょうプレイヤー』。毎年10月1日「都民の日」から1週間、啓発キャンペーンとして実施しています。当団体も、キャンペーン期間中の10月5日(金)の「なかだの森であそぼう!」を開催することでプレイヤーに参加しました。

キャンペーンの趣旨がとてもステキです。皆さんもぜひ「あそぶ」についてこの機会に考えてみてくださいね。

遊ぶって、すごい。
うれしくなったり、楽しくなったり。
いろんなことを思いついたり、誰かと仲良くなれたり。

お腹が減ったり、疲れて眠くなったり。
時間を忘れるくらい夢中になったり、大切な思い出ができたり。
他のどんな時よりも、自分が主人公になれる人生の大切な時間。

暑いときも、寒いときも。屋外でも、屋内でも。
一人でも、たくさんでも。
「あそぶ」ということの中には、
生きている私たちの「しあわせ」につながる
たくさんのお話が詰まっています。

▲一般社団法人「TOKYO PLAY」は子どもが健やかで幸せに暮らしていくことができる社会を目指し「子どもたちの遊びのよりよい環境づくり」のために活動しています。今年度、なかだの森で講演して頂いたどつくもプロジェクト担当をされています。



様々な立場や世代の大人が力を合わせて、なかだの森を開催しています。
このコーナーでは、子どもがのびのび遊べる居場所を支えているなかだの森に集う人を毎回、一人ずつ紹介していきます。

第11回目の今回は… ちょこちゃん

「なかだの森であそぼう!」開催当初からスタッフとして、子どもも子育て中の親も温かく見守ってくれたちょこちゃん。今は森のスタッフとしてだけでなく、仲田の森蚕糸公園の清掃・整備にも携わり、活動をサポートしています。



よく来たね~!うれしいよ!
いっぱい遊んでって!という気持ちで森にいます。
子育て中のお母さんに、子育てする上でいっぱい悩みがあると思うけど、心配しないで、大丈夫だよ、大丈夫だよ!と伝えたいな。

表紙の写真



タイトル「きみとボクとおさかなと」
網で捕まえた魚を水槽に入れて観察。
そーっと、のぞいてみてごらん♪

今年も入選しました!
毎年、日野市と八王子市が共同開催している「あさかわ写真展」。今年度も、当団体の活動写真が佳作として表彰されました。



共に創る通信にしていきたいです。
今、子育てしていて感じていること、
子どもに関わっていて感じていること、
ぜひ教えて下さい!

表面のイラストはひろみちゃん(応援会員)が描いてくれました。
ひろみちゃん、ありがとう!

森のひと

「皆さんは川であそんだことがありますか?」と聞くと、実は案外、子どもの頃の川あそびをキラキラした目で話してくれる人がいて、驚きます。何を隠そう、私は川であそんだことが一度もなかったからです。

あ、一度もない、というのはウソかも。そういえば、昔、キャンプ場に流れている清流で遊んだことはありました。でも、地元で流れている川で遊んだことはありません。(都内でしたが、緑も多く、決して汚い川ではなかったのですが)

キャンプ場の清流と地元で流れている川が、まさかつながっているなんて、そんなことを考えたこともありませんでした。

キャンプ場の川は遊んでもいいけど、地元の川は入っちゃいけない場所…入ろうとも思わない場所。そんな感じだったのかなあ。

子どもが生まれてこの活動に関わってから、初めて自分の住んでいる地域の川で遊び、その景色の美しさに惚れ惚れしました。「日野市っていいとこだなあ」って。

そして、川にはたくさんの魚、そしてそれを狙っているだろう鳥たち、小さな虫たちが生きていることを知って、ワクワクしました。

それ以来、プールで泳ぐより川で泳ぎたい私。だって、プールには生き物が住んでないんだもん。(当たり前ですが笑)

ちなみに、私は川辺にサギが凜と立っている姿を見ると、惚れ惚れしてしまいます。

未だに川では魚を捕まえられないし、私生活でもかなりドン臭い私ですが、いつかサギのように凜としてみたい…と密かに憧れている私です。

(ユキコ)



なかだの森であそぼう! Information^{プラス}

ここでは、「なかだの森であそぼう!」初めてさんによく聞かれる質問をご紹介します! 今回はコチラ↓ 分からないことがある方は、お気軽に事務局までお問い合わせください。

和 焚き火が似合う季節になりましたね。でも普段は本物の火ってなかなか見かけないし身近でなくなってしまいました。慣れていない分少し怖い感じもあるけれど、見てると癒されもする焚き火のお話です。

和 焼き芋とかやっていますか?

ぜひどうぞ♡
お餅・さつまいも・じゃがいも・りんごマシュマロなどなど。
釣った魚を焼く人もいればアップルパイを温めていたり! 先日はひろみさんがフライパン片手にゴーヤチャンプルーを作りました!

和 ドラム缶とかやっぱり熱いよね?

熱いです! 火傷注意。しかも触ると煤が付いて汚れが落ちにくくなったりもします><でも必要以上に怖がらなくて大丈夫!

和 焼き芋のアドバイスありますか???

これから焼き芋渋滞が起きるのでアルミホイルにツノ作ったり、テープ巻いたりして自分の芋を見失わない工夫をぜひどうぞ♡

和 周りにある木や枝、入れて燃やしてもいい?

焚き火用に切ったある木、入れて良いですよ! あと、落ちていた木や葉っぱも入れて大丈夫です。近くに置いてある火バサミなども使ってください!

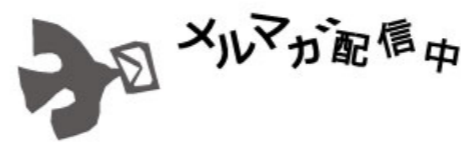
たもつがね、火柱を作る! とか言ってキャンプファイヤーみたいに木を組んで頑張って団扇で仰いでいたり(でも途中で崩壊していたよ) 2歳の子が取り憑かれたようにその辺の枝を入れ続けていたり、大人から子どもまでみんなを包み込む焚き火の世界。ぜひ、お待ちしております。



ようこそなかだの森へ

とももさん(右)・なぎささん(左)

- お子さんの年齢 共に2才
- 森は何回目? 5年ぶりの2回目/初めて
- お子さんの着替えは何枚? 余裕を見て2回分!
/とりあえず一式
- 森に持ってきたもの 焼きいもを持ってきました!



活動を応援して下さる皆さんに、その月の情報や活動の想いを毎月第1木曜日にお送りしている当団体のメルマガ『今月のまなざし』。その月ごとのまなざしの情報が合わせて確認できるだけでなく、メルマガだけの記事もあります。ぜひご登録下さい!



子どもへのまなざしメルマガ 検索

子どもが子どもらしく「子ども時代」を過ごすことが当たり前の中になしたい! NPO法人子どもへのまなざしと一緒に実現しませんか?

子どもへのまなざし 検索

主にこんな活動をしています

フレイバー「なかだの森であそぼう!」

子どもが主人公の居場所を創り続けよう! 「なかだの森であそぼう!」は子ども・子育て新制度「新!ひのっすくすくプラン」の中の重点的取り組み「遊び場の充実」として位置づけられています。
■毎週金曜日・毎月第2・3土曜日
■どなたでもどうぞ! (詳細は裏面をご覧ください。)

野外保育「まめのめ」

園舎を持たず、日野にある森や川、丘を中心に、季節や天気で日々変わっていく自然をまるごとフィールドにして、体験と感動を繰り返しています。
■月～金
■対象/2歳～就学前の子ども
■ブログで「まめのめ」の日々や想いを写真とともに綴っています。

あそべ!子どもたち!事業

子ども時代の遊びをもっと自由に! もっと豊かに! 『子ども時代のあそびを保障するための取り組み』として、あそびを通じた育ちと体験の場づくりを実現するための事業です。
■夏、秋、冬に定期開催しています。

こんな応援の方法があります



活動を続けていくには、活動資金の下支えが必要不可欠です。
<寄付の使途が選べます>
ご寄付 1口 1,000円
<より繋がりたい方へ>
応援会員 3,000円/年
■HPよりクレジット決済できます!



当団体の理念を実現していく仲間です。NPOの議決権を持っています。
6,000円/年
■HPよりクレジット決済できます!



なかだの森通信の用紙1年分を購入することができました!!
イオンモール多摩平の森で毎月11日にレシートを「子どもへのまなざし」ボックスに投函すると、合計の1%分相当の物品が贈呈されます。



私たちの活動を「いいね!」して頂いたり、SNSでシェアして頂くだけで、私たちにはとても大きな応援となり、社会を変える一歩となります。

多くの方に支えられて活動しています

正会員、応援会員、ご寄付を下さった皆さまの力で活動できています。いつも応援いただき、本当にありがとうございます!

- 正会員 **13**人
- 家族会員 **2**人
- 応援会員 **16**人
- ご寄付 **8**人 / **2**団体(企業等含む)
(計68,430円)

※平成30年7月～11月の間に、会員、ご寄付を頂いた方の人数を集計しています。

■寄付・会員お申し込みは、当団体HPからまたは、郵便振替口座 00170-6-449584 トクコトメルマガシ

※通信欄に寄付または会費とご記入下さい。

■私たちは認定NPO法人を目指しています

認定NPO法人とは、活動や組織運営の健全さ、団体の公共性、情報公開の透明性などの審査により、「より客観的な基準において高い公益性を持っている」ことを判定された法人で、認定NPO法人に寄付をすると税制上の優遇措置があります。認定NPO法人になるためには、3,000円以上の寄付者が年平均100人いることが重要な条件の一つとなります。応援、よろしく願い致します。